

なばり

2014年(平成26年) 2月23日発行

主な内容

- ②……春の全国火災予防運動、第4回名張子ども伝統芸能祭り
- ③……子どもハンドボール教室参加者募集、国津の杜の行事
- ④……3月の二次救急実施病院、予防接種はお済みですか？

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 〻http://www.city.nabari.lg.jp

「いっしょに味わえない地域の魅力に触れてほしい」

自然好きが高じて自宅近くをよく散歩していました。赤目の里地里山の風景がとても好きで、「自然や文化を学びたい、地域のために活動したい」とさまざまな提案や取組みを始めることに。人と人、人と自然、人と社会をつなぐプランを示しながら、少しずつ実現しています。地域の人たちと活動ができるのが喜びであり、わたしの宝です。

「この風習や文化はここだけなんです」地元の人にとっては、当たり前のことでも、外から来た人には、とても新鮮で魅力あるものに感じます。また地元の人から直接話を聞くと、伝わり方も違つか、喜んでくれます。本当にいいものは、おのずと訪れる人が「口コミ」で宣伝してくれるんです。地元の人にも、「訪れた人に楽しんでもらえる」と感じ、大切に

に残す、伝えるための新しい発見が生まれ、自分の地域にあらためて誇りを持てます。地域づくりの皆さんも近鉄赤目口駅に旅のステーションや観光案内板を設置しました。地域の魅力を発信しようとして積極的に活動されていることがエコツーリズムの原点と言えます。



エコツーリズム地域コーディネーター
宮本 篤さん

皆さんの住む地域でも、自慢できる魅力をどんどん発信してほしいですね。



赤目四十八滝渓谷保勝会では、赤目滝に多くの人にお越しいただくため、自然を生かした渓谷内での催しを企画したり、遊歩道を安全に楽しんでもらうための整備をしたりする活動をしています。

赤目滝を訪れる人は、以前は観光バスでの団体客が多かったのですが、今は、家族やグループなどの少人数が中心。見るだけの観光から体感する観光へとニーズも変化してきました。それに応えようと、赤目渓谷が昔、忍者の修行場だったということから、忍者衣装を着て修行体験ができる「忍者の森」をオープンさせ、今では人気のスポットになりました。また、自然そのものを生かし、渓谷内の生き物を探したり、沢すべりをしたりする「わくわく体験エコツアー」

もここでしか体験できないと好評です。赤目の自然を満喫して、もう一度来たいと思ってもらうためには、パンフレットをお渡しするだけでは伝わりません。「この滝までは頑張ってください」そんな素晴らしい景色です。そんな具体的な説明や会話を常に心掛けています。お

もてなしの笑顔でお迎えすれば、きっと訪れた人の印象は違はずですからね。



特定非営利活動法人 赤目四十八滝渓谷保勝会
理事長 高原 清さん

エコツーリズムとはー



切り株から分かる木の樹齢や森の様子が説明され、来訪者は熱心に聞き入る。

エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化などの魅力を観光客に伝え、その価値が理解されることにより、保全につなげていくこととする取り組みです。観光振興という側面にとどまらず、地域住民が自分たちの資源の価値を再認識でき、また、自分たちの資源が来訪者からも注目されることで、地域社会の活性化につながっていきます。

平成25年、市や関係団体などで組織する「名張市エコツーリズム推進協議会」では、エコツーリズム推進法に基づき必要な事項を定めた推進全体構想を策定しました(※)。今後、この構想に基づき、地域の皆さんとともにエコツーリズムの推進に取り組んでいきます。

☎ 観光交流室 ☎ 63-7648

※ 現在、エコツーリズム推進全体構想はエコツーリズム推進の道しるべとして、全国に先駆けて国の認定を目指しています(2月現在、全国で3団体が認定を受けています)。構想は、市ホームページでもご覧いただけます。